

## 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/9/4～2019/9/30)

### 1. 勉学の状況

私が通うサラマンカ大学の翻訳学部では授業が9月10日から始まりました。10日に行われたオリエンテーションではエラスムス（ヨーロッパの学生）の生徒だけで、インテルカンビオの生徒である私は、オリエンテーションに参加することができず、その上インテルカンビオの生徒用のオリエンテーションがなく、履修登録の仕方や詳細について全くわからず困りました。緊張しながらも千葉大学という文学部の事務的な場所に聞きに行くと優しく教えてくれました。人によって言われることが違って来るので、わからないことは友達に聞くことも大事ですが、自分で教授にアポイントを取って足を運び、疑問に思ったことをその都度聞きに行くことも大切なのだと学びました。

留学生の履修登録期間は9月25日から10月10日までと、期間が長いということもあり、興味がある授業に参加しました。私が履修しようと考えているのは、留学前から考えていた、翻訳学部の Fundamentos para Traducción 「翻訳の基礎」と文献学部の Gramática para la Enseñanza 1,2 「指導のためのスペイン語文法」の3つです。「翻訳の基礎」の授業では実際に講義に出てみると教授の早いスペイン語と最終評価がレポートということで最初は不安になりました。しかし、千葉大学では学べない科目であり、講義後に教授に相談してみると、とても優しく接していただき、アドバイスももらうことができ、頑張ることを決めました。内容は非常に興味深く、翻訳の認識の仕方の変化や、もとの言語の言葉でしか表現できない言葉をどのようにして翻訳される言語で表すか、など翻訳する際の問題点についてクラスで議論しています。まだ自分の力では理解するのは難しいので、わからないところは授業で仲良くなった友達に教えてもらっています。一人だと心細かったのですが助けてくれる友達がいて本当に心強いです。「指導のためのスペイン語文法」の講義は留学生が多く受講していることから、教授のスペイン語は比較的聞き取りやすいですが、まだまだ完璧に聞き取れるという状態には程遠いので頑張りたいです。もう一つ留学前に考えていた、seminario de traducción japonés-español という講義は、今年、開講されておらず、履修することができませんでした。また、翻訳学部の日本語とスペイン語の同時通訳の授業に参加してみようと思い教授にメールしてみたところ今年はこの授業を選ぶ生徒がないということで開講されず、断念することになりました。

また、学校の講義だけでなく公立の語学学校にも通う予定です。レベル分けテストは本当に難しかったのですが自分が思っていたレベルより上のレベルに振り分けられ、授業についていけるか不安ですが、踏ん張って頑張っていきたいです。

## 2. 生活の状況

この一ヶ月は新しいものや人との出会いの連続でした。景色や建物全てが日本と違い最初の一週間は感動していました。私は昨年留学されていた先輩と同じピソというアパートのようなところで、私を含めポルトガル人とモロッコ人の三人で住んでいます。最初は私一人でとても寂しかったのですが一週間するとポルトガル人が来て、さらに一週間後にはモロッコ人が来てようやく三人揃っての生活が始まりました。私はなんとか話す機会が欲しくて誰かがリビングやキッチンにいるのがわかると偶然を装って話をかけていました。なかなか上手に話せないですが少しでも会話をしたいので頑張って話しかけています。その甲斐あってか最近では少しずつ会話が増えて来ているように思います。ポルトガル人の女の子と二人でピザの出前をとったり、三人揃った日にはみんなでご飯を食べてテレビを見たりしています。三人が揃うことは珍しいのでその日は夜中の1時くらいまでずっと話をしました。お互いの言語について教えあったり、お箸にとっても興味を示してくれたのでお箸の持ち方をお教えたり少し恋愛の話をしたりととても楽しい時間を過ごしました。二人の早いスペイン語での会話について行くのは少し大変で、話している内容はわかって細かいところはまだ聞き取れないのですが、私がわかっていないことを察して、わかりやすい言葉を使って話してくれ、私が理解するまで説明してくれます。二人の優しさをありがたく思うと同時に自分の不甲斐なさ、そして言いたいことが言えないもどかしさを感じています。

今月は日本人とスペイン人の交流会に行きたくさんの人と友達になりました。毎週のように遊びに誘ってくれて充実した日々を送れているのは友達のおかげなので本当に感謝でいっぱいです。スペインでは友達の友達は友達方式で、行くたびに新しい友達に出会えます。日本ではあまり体験したことがないことだったので新鮮かつ、誰でも受け入れようとする考え方にとても感心しました。また、思っていたより日本人が多く、日本語を使おうと思ったらずきに使える環境でもあります。自分の語学力の無さからついつい日本語に頼ってしまうときもあったので、できるだけ使わないようにしようと思っています。同時に日本人たちが徐々に成長している様子を見ると自分も負けてられないなという気持ちにもなります。付き合い方次第ではいい関係になれるので切磋琢磨しながら過ごして行きたいと思います。

スペインに来て一週間ぐらひは一日がとても長く感じていましたがもう一ヶ月が経っていました。最初の頃より耳がスペイン語に慣れて来たなという実感はありますがまだまだ自分が満足するレベルには程遠いので、できることから一生懸命頑張って行きたいと思いました。また、人と比べて落ち込んだりすることが多かったのですが、焦らず自分のペースで一步一步前に進んで行きたいです。

## 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/10/01 ～2020/01/31 )

### 1. 勉学の状況

今月で1セメスターが終わりました。二つの文法の授業のテストは12月の初めにあり、問題は4問しかなかったのですが設けられていた二時間を丸々使って解答用紙二枚分びっしりと書きました。教授はとても優しくテストで高得点を狙うために勉強すべきポイントを教えてくださっていたのでテスト対策がしやすかったです。また、テスト期間では、スペイン人の友達が気にかけてくれて、去年同じ授業を受講していた友達がわからないところを教えてくれたり、わかりやすくまとめた自分のノートをPDF化してくれていつでも見返せるようにとメールで送ってくれたりしてとてもありがたかったです。同じ授業を取っている友達とも図書館やカフェで勉強しました。友達の協力もあり、無事両方単位を取ることができました。翻訳の授業はテストではなく、一月末に提出する論文での評価でした。授業自体は10月いっぱいまで終わっていたため、11月からテーマを絞りそれについて関連する文献を読み始めました。私は日本の漫画の用例を用いて、giro cultural (翻訳する際に言葉だけではなく文化も尊重した翻訳にしようという考え方)についての論文を書きました。論文を書くためにかなりの数の論文を読みました。最初の頃はわからないスペイン語ばかりでかなり時間がかかっていましたが読んでいくうちに同じ単語に何回も出会いさらに文の構造にも慣れてきたことから少しずつコツを掴めるようになりました。しかし、英語で書かれた論文も読まなければいけなかったのでここ数年スペイン語ばかりを勉強していた私には久しぶりの英語の登場に骨が折れる作業でした。しかし、同じ授業を受けている友達が偶然似ているテーマで書いていて、共通している内容が書かれている論文を見つけては私に教えてくれて私が興味を示すとその論文をコピーして私にくれたり、また、私書いた論文の添削も快く引き受けてくれたり、論文の書き方がわからない時に相談すると優しく教えてくれたりして本当に感謝してもしきれません。全部で15ページの論文を完成させることができ、達成感でいっぱいでした。また単位も無事取れていて安心しました。

同様に千葉大学に提出しなければならなかった三年次論文も一月の終わりが締め切りで一月は二つの論文に追われていて大変でした。しかし、自分の興味があることだったので調べていて楽しく、また、先ほど述べた翻訳の授業と似ている内容であったため、比較的書きやすかったです。自分が納得する論文を書き上げることができてよかったです。

大学の授業だけでなく語学学校の授業も今月で最後でした。語学学校では様々な国籍の人が通っているため、その国の文化や政治について知ることができてとても楽しかったです。2セメスターは大学の授業の時間と同じ時間なので通うことを断念しました。その分大学の授業に集中していきたいです。2月から2セメスターが始まるので実りある五ヶ月間にしていきたいと思えます。

## 2. 生活の状況

留学生活も五ヶ月が経ち月日の流れの速さに日々驚いています。サラマンカは10月くらいから寒くなり始め、また私の家は特に寒いので湯たんぽなしでは生活できないほどなので湯たんぽのありがたさを痛感しています。そんな中、私の家のガスが壊れてしまい、何日間もお湯が出ない生活でした。すぐさまガス会社に電話したのですが、その日が金曜の夜で、土曜と日曜はお休みだったらしく月曜日に折り返しの電がかかってきて数日後修理の人の方がきてくれました。日本ではまず起こり得ないことであり、業者の人がすぐ駆けつけてくれるのでスペインの対応の仕方に理解し難く、また、初めて経験したことだったのでストレスが溜まっていましたが、同居人と話したりご飯を一緒に食べたりすることで気を紛れさせることができました。この四ヶ月間で同居人との中がとても深まったように思います。私がつまりながらも話すことにしっかりと聞いてくれ、うまく説明できなくて、話すのをやめようとした時にはゆっくり話してみても言ってくれ理解してくれようとする姿勢がとても嬉しかったです。恋愛の話や宗教の話、またゲームなどしていつも3人で過ごしています。お正月はみんな自分の国に帰っていたため正月明けに3人で会った時はみんなんでハグをしました。出会った当初はこんなにも仲良くなれると思っていなかったもので、とても嬉しいです。同居人のおかげで家の中でも楽しく過ごせています。

学校のお友達とも家でパーティーをしたりカフェに誘ってくれたり、語学学校の友達とも定期的に同じカフェで集まって話したりしています。定期的に誘ってくれる友達には日々感謝です。私が驚いたのは、こちらの友人は年末に帰省するとき一人の友達が帰省するたびにお別れ会と言ってみんなでバルに集まります。会えなくなる期間がたった2週間なのに集まっていて最終的にはほぼ毎日のようにお別れ会をしていました。スペイン人が情熱的だと言われる理由がなんとなく理解できました。私はスペイン人のこのような人との関わり方がとても好きだと思いました。

休暇を利用して4カ国に行ってきました。久しぶりに英語を話すと全く単語が出てこなくて、出てくるのはスペイン語でした。いいことではあるのですが、英語ができなくなって少しショックでした。しかし、どの国でも、スペイン人だったりスペイン語を話せる人がいたりして、スペイン語を使ってコミュニケーションをとることができました。スペイン語ができなければ出会えなかった人たちにスペイン語というツールを使って出会えたので本当にスペイン語をやってよかったなと感じました。この4ヶ月間で少なくとも9月初よりは自分のスペイン語が成長していて友達とも会話が徐々に増えてきて喜びが感じられましたが、まだまだ自分の満足のいくレベルではないので残された日々でできることを頑張りたいです。

二月で私と一緒に千葉大学から来ていたもう一人の留學生が帰ってしまいます。困った時はお互いに助け合っていたので帰るのは本当に寂しいですが日本でだけでなくスペインでも同じ場所で一緒に勉強ができてよかったです、これからは一人で寂しくなりますが、5ヶ月間頑張ります。



同居人と



語学学校のお友達と



サラマンカ

## 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2020/02/01 ～2020/06/31 )

### 1. 勉学の状況

2月から後期が始まりました。前期以上にどの授業を取ろうか悩みました。興味のある授業に色々参加し、友達に相談にのってもらい、最終的に翻訳学部から言語学と日本語からスペイン語への翻訳の授業、そして文献学部からアジアの社会についての授業を履修することに決めました。さらに、もう一つ翻訳の授業（受講していたものより少しレベルアップしたもの）を聴講しました。後期の授業はどれも前期より難しかったように思います。

#### Lengua Española (言語学)

この授業は週に2回あり、火曜日は理論、木曜日は実践的な内容、そして後期の半分で先生が変わるという構成になっていました。前半の先生の内容は接続詞についてで、私もスペイン語を学ぶ際に勉強したことがあったので比較的理解しやすかったです。しかし、後半の内容は類義語の使い分けについてで、私の語彙力の無さから微妙なニュアンスの違いを理解することはかなり難しく何度もくじけそうになりました。その度に、友達がノートを授業後に見せてくれたり、休日にカフェで教えてくれたりと助けてくれました。帰国後も続けたかったのですが、グループワークの際、時差の関係で周りの人に迷惑をかけてしまうと思い断念しました。最後まで頑張れたかったのでとても残念でした。

#### Traducción directa japonés (翻訳)

この授業は様々なジャンルの日本語の文書をスペイン語に翻訳するという授業でした。毎回スペイン語への翻訳を予習し、授業の中で発表し、みんなで意見を出し合いました。特に日本語の言葉遊びや独特な表現法に苦勞し、直訳するのではなく意識をしたり、注釈を入れて説明したりするなどの翻訳の技法を身につけることができました。また日本の文化や言葉の説明を求められることが多く、答えられないと恥ずかしい思いをすると考え、ここは聞かれそうだなというところは事前に説明をできるように予習しました。千葉大学では翻訳についての授業がないので、この7ヶ月で翻訳の基礎について学ぶことができ翻訳の難しさや奥深さに触れる良い機会となりました。帰国後はZoomを用いて受講していました。テストは授業で取り扱ったものと類似したテキストを日本語からスペイン語に翻訳するというもので、二時間いっぱい使いなにか合格していて嬉しかったです。

#### Sociedades de Asia Oriental (アジアの社会について)

アジアの社会についての授業は、中国、韓国、北朝鮮、日本の政治の仕組みについて学びました。日本以外でアジアをどのように見てどのような教え方をしているのかとても興味があった

ので受講していてとても楽しかったです。また、近くの国なのに知らないことが多く自分の知識の無さを恥ずかしく思うと同時に興味を持つきっかけとなりました。また、スペイン人の生徒はかなり興味を持って受けている様子でこんなにもたくさんの方がアジアについて興味を持っていることに嬉しく思いました。帰国後は先生が用意した課題を Studium という Moodle に似た場所に提出していました。最後のテストは選択式で、10問を10分で解かなければならず、スペイン語を読むのが遅い私にはとても苦労しましたが無事単位が取れてホッとしました。

途中帰国で授業自体がどうなるのか不安でしたが帰国後も継続して学ぶことができ恵まれた時代に生まれたと思えました。また、離れていてもテスト期間になるとテスト勉強に力を貸してくれた友達には本当に感謝でいっぱいです。

## 2. 生活の状況

後期が始まり前期より生活に慣れてきました。そのため、もっとスペインの生活に馴染みたいという思いで、2月の間は同居人と一緒にジムに通いました。また、美容室にも行ってみるなど、現地で生活してみないとできないことをたくさん経験しました。また、後期からは、前期から仲良くしてくれていた友達に加え、同じ授業で知り合った翻訳学部の友達とも仲良くなり、1週間に1度、約束をして遊びました。さらに前期は会うと話すくらいの仲だった友達も休みの日に一緒にカフェに行くようになり、距離を縮めることができました。

2月の後半には、友人とスペインのグラナダに行ってきました。この地方はイスラムの文化が濃く残っており、サラマンカとはかなり違った街並みでした。かの有名なアルハンブラ宮殿にも足を運び、そこにもイスラムの文化が色濃く残っており、とても感動したのを覚えています。また、スペイン人の友人を誘ってかねてから行きたかったカセレスにも日帰り旅行しました。いつも私と仲良くしてくれている友人2人と一緒に旅行ができ、本当に嬉しかったです。スペインはどの地域も様々な特色があり、一つの国であるにも関わらず、いろんな国に居る気分を味わうことができました。

2月や3月の中旬はとても充実していて毎日が楽しかったのですが、2月の初めくらいにカナリア諸島にコロナ感染者が出ました。その時はまさかこんなに事態が大きくなると思っていませんでした。3月の中旬には隣国のイタリアがかなりひどい状況になっており、イタリア帰りの人がスペインに持ち帰ることで、スペイン国内でもマドリードを中心に徐々に増え、事態は日々酷くなっていました。3月の中旬にスペインでは緊急事態宣言が出され、スーパー以外、家から出られず、それ以外の外出は特別な理由がないと罰金になるという厳しい状況でした。そのため、緊急事態宣言が出される前にスペイン人の友達は帰省していき最後にお別れを言えなかったのが心残りでした。お世話になった同居人の一人も自国へと帰り、最後の挨拶できず本当に悲しかったです。また緊急事態宣言中、いつもは街にいるはずの人々が消え、とても静かな街並みでした。そして毎晩8時には医療従事者に、9時にはスーパーで働いている人に向けて住民がベランダに出て拍手をしており、私もよく参加していました。不幸中の幸いなのか、いつものスペイン



とはまた違ったレアなスペインの生活を体験できました。

### 3 最後に

思いがけずコロナウイルスによって現地での滞在が途中で中断ということになってしまい悔しかったですが、留学を振り返ってみるとやはりどの部分を切り取っても、楽しかったという気持ちでいっぱいです。最初の方は自分の言語能力のせいで何回も壁にぶつかったこともありましたが、その経験も踏まえて全てが自分にとって良い経験となりました。終盤は今までの自分の人生の中では経験したことのない状況で、重要な選択の連続でしたが、留学支援室の方をはじめとした様々な人のおかげで無事帰国することができ、留学を終えることが出来ました。留学を通してできたすばらしい友人との出会いにも感謝でいっぱいです。当初予定していた期間よりかなり短くなってしまいましたが、とても充実した時間を過ごすことができました。多方面から支えてくださり、ありがとうございました。



(カセレス日帰り旅行)



(Plaza Mayor)





(お世話になった同居人)